日本語

KORG

KROME

MUSIC WORKSTATION

クイック・スタート・ガイド

安全上のご注意 2
ディスプレイについて 3
データについて 3
取扱説明書について 3

おもな特長 5

フロント・パネル 6
リア・パネル 7

接続して電源を入れる 8
電源を入れる 8
電源を切る 9

ディスプレイとモードについて 10
ディスプレイ 10
モードを選択する 11

演奏する 12
プログラム、コンビネーションを選ぶ 12
コントローラーを使ってサウンドに変化をつける 13
アルペジエーターによる演奏 14
ドラムトラックを使用する 14
プログラム、コンビネーションの簡易エディット 15

シーケンサーを使う 16
演奏をレコーディングする 16
レコーディングした演奏を修正する 17
テンプレート・ソング 18

エフェクトを使う 19
ルーティングとエフェクト設定 19

データを保存（ライトとセーブ）、読み込む（ロード） 20
エディットしたデータを保存する 20
ライト 20
セーブとロード 20

デモ・ソングを聴く 22
デモ・ソングをロードする 22
デモ・ソングを聴く 22
複数のソングを連続再生する 22
RPPRで演奏する 23

仕 様（概略） 23

保証規定（必ずお読みください） 24
アフターサービス 24

このたびはコルグ・ミュージック・ワークステーション KROME（クローム）をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。 左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。 左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。 左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警 告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性があります。

- **ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品をコンセントの近くに設置し、AC アダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って AC アダプターのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ACアダプターが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **AC アダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注 意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります。

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**

- **長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから抜く。**
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。

- **付属の AC アダプターは、他の電気機器で使用しない。**
  付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の上にのったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

ディスプレイについて

本製品のディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、ディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ディスプレイの一部に黒点（点灯しない点）や輝点（常に点灯する点）がある。
- 表示内容によっては、ディスプレイの明るさにムラが生じる。
- 表示内容によっては、横縞の陰が見える。
- 表示内容によっては、ちらつきやモアレを生じる。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書について

取扱説明書の構成と使用法

KROMEには以下の取扱説明書が付属されています。

- ビデオ・マニュアル（収録時間 約60分）
- クイック・スタート・ガイド（印刷版、PDF）（本書）
- オペレーション・ガイド（PDF）
- パラメーター・ガイド（PDF）
- ボイス・ネーム・リスト（PDF）

これらのすべての取扱説明書は付属アクセサリー・ディスクに収録されています。
クイック・スタート・ガイドのみ、印刷版を付属しています。

ビデオ・マニュアル

KROMEのおもな機能を動画でご覧いただけます。

クイック・スタート・ガイド

KROMEのおもな機能を簡単に確認できます。まずは本書をお読みください。「ビデオ・マニュアル」とあわせてご覧になることをおすすめします。

オペレーション・ガイド

オペレーション・ガイドはKROMEの操作方法を説明します。操作中に「これ、どう操作するのかな？」と思ったら、このガイドをお読みください。

KROMEの各部の名称や機能、基本的な操作方法、各モードの概略や音色のエディット方法、シーケンサーへのレコーディング方法などを説明します。また、エフェクトやアルペジエーター、ドラムトラックやドラムキットなどの基本事項も説明します。

この他にもオペレーション・ガイドには「故障かなと思う前に」確認していただきたい事項や「仕様」などの情報を収録しています。

パラメーター・ガイド

パラメーター・ガイドは、KROMEのすべてのパラメーターに関する情報をモード、ページごとにまとめたものです。「このパラメーターは何かな？」と思ったら、このガイドをお読みください。

ボイス・ネーム・リスト

ボイス・ネーム・リストは、KROMEの工場出荷時に収録されているサウンド等のリストです。以下が含まれます。
プログラム、コンビネーション、マルチサンプル、ドラム・サンプル、ドラムキット、アルペジエーター、ドラムトラック・パターン、デモ・ソング、テンプレート・ソング、エフェクト・プリセット

PDFマニュアルについて

PDFの取扱説明書は専門用語などを検索するときに便利です。検索機能を使用して目的の用語を素早く探すことができます。また、目次や文中のページ表記をクリックすると、調べたい項目へ簡単に移動することができます。
なお、KROMEのディスプレイにPDFを表示することはできません。PDFはコンピューターでご覧ください。

取扱説明書の表記

KROMEの名称表記

KROME には、88 鍵モデルのKROME-88、73 鍵モデルのKROME-73、61鍵モデルのKROME-61があります。この取扱説明書でKROMEと表記するときは、これらの総称になります。

取扱説明書の省略名

参照ページを示す場合などでは、各取扱説明書の名称を次のように省略して表記します。

QS: Quick Start Guide （クイック・スタート・ガイド）
OG: Operation Guide （オペレーション・ガイド）
PG: Parameter Guide （パラメーター・ガイド）
VNL: Voice Name List （ボイス・ネーム・リスト）

スイッチやノブ類の表記 [ ]

本機のパネル上のスイッチやダイヤル、ノブ類は[ ]で括って表しています。また、ボタン、タブ等はディスプレイ上のオブジェクトを表しています。

ディスプレイのパラメーターの表記 " "

ディスプレイに表示されるパラメーターは" "で括って表しています。

マーク , , *Note, Tips*

これらのマークは、順番に、使用上の注意、MIDIに関する説明、ノート、アドバイスを表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも一致しない場合があります。

MIDI に関する表記

CC#はControl Change Number（コントロール・チェンジ・ナンバー）を略して表しています。

MIDIメッセージに関する[ ]内の数字は、すべて16進数で表しています。

---

* すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

おもな特長

キーボード・プレイヤー、そして音楽クリエーターのための新領域サウンド

- KROMEの音源システムEDS-X (Enhanced Definition Synthesis-eXpanded) は、プロの現場でも評価の高いEDS音源システムのシンセシス、モジュレーション、エフェクト群の機能性やクオリティを余すところなく継承し、さらに十数倍に及ぶ情報量のPCMサウンドを制御可能にした新開発音源システムです。
- KRONOS 開発で培われたボイシング・テクノロジーを惜しみなく投入し、全鍵ステレオ・ロング・サンプリングやアンビエンス・ドラムなど、合計4GBの高品位PCMを結集しました。音の立ち上がりから消え際までのディテールを緻密にデザインし、繊細かつダイナミックに表現します。指先に込めた表現を忠実に再現するA.ピアノ、E.ピアノ、オルガン、管弦楽器、シンセ、ドラムなど、バリエーション豊かなサウンドを多数収録*しました。

  * 640 プリロード・プログラム (基本サウンド) と、それらを組み合わせた384プリロード・コンビネーションを収録しています。

強力なエフェクト部

- KROMEには、コーラス、ディレイ、リバーブやオーバー・ドライブ・エフェクト、ヴィンテージ・エフェクトやアンプをシミュレートした193種類のエフェクト・タイプが収録されています。各タイプともプロ・レベルのクオリティと自由度を誇ります。また、各エフェクトの設定をメモリーして、いつでも簡単に呼び出せるエフェクト・プリセット機能も装備しています。
- エフェクトは、インサート・エフェクトを5基、リバーブなどに適したマスター・エフェクトを2基、マスタリング・リミッターなど、メインのステレオ・アウトに使用可能なトータル・エフェクトを1基、合計で最大8基を同時に使用することができます。加えてプログラムには1基、コンビネーションやソングには最大16基の3バンドEQを使用することができます。すべてプログラム、コンビネーション、ソングごとに設定できます。
- マスター・エフェクトとトータル・エフェクトは、フロント・パネル上でオン/オフをコントロールできます。

デュアル・ポリフォニック・アルペジエーター

従来のオーソドックスなアルペジオ・パターンに加え、ギター、ベースなどのリフやドラムス・パターンなどを演奏できます。また、微妙にモーションするパッド、シンセ、SE音など音作りの一部としても効果が出せます。コンビネーションとシーケンサーでは、同時に2つのアルペジエーターを動作させることができます。900ユーザー・アルペジオ・パターンを収録し、強力なパフォーマンスが可能です。

ピアノ・ロールによるパターン編集が可能です。オリジナルのパターンを素早く作成できます。

ドラムトラック・パターン

ドラムトラックは、KROMEの高品位ドラム・サウンドを使用した内蔵ドラム・マシン機能です。605種類のパターンを収録しています。

表現力豊かな演奏が可能な鍵盤とコントローラー

- KROME-61および73では、セミ・ウェイテッド鍵盤を採用し、ピアノ音色からシンセサイザー音色まで、自然なタッチで演奏できます。
  KROME-88では、NH（ナチュラル・ウェイテッド・ハンマー・アクション）鍵盤を採用し、ピアノやエレピなど細かいニュアンスが表現可能なサウンドにおいて威力を発揮します。
- 音色変化を生み出すジョイスティックに加え、オクターブ変更やジョイスティック・ロックなどの機能を割り当てて使用できるスイッチ（SW1、2）、カットオフやレゾナンス、エフェクトを調整するリアルタイム・コントロールなど、演奏に欠かせないコントローラーを搭載しています。
- ダンパー・ペダル、フット・スイッチ、フット・ペダルを接続できる端子を3つ搭載し、音量調節、エフェクトのコントロールやサウンドの切り替えなどを足元で行うことができます。

音楽制作やパフォーマンスに便利なシーケンサー

16MIDIトラック+1マスター・トラックのシーケンサーを内蔵しています。インスピレーションが湧いた瞬間からすぐに楽曲制作が行えるオート・ソング・セットアップや、テンプレート・ソング、RPPR、キュー・リストなど、音楽制作やパフォーマンスに便利な機能が充実しています。

トラック・ビューやピアノ・ロールによるトラックやパターン編集が可能です。

また、SMFのインポート/エクスポートが可能なため、コンピューターなどの他のプラットフォームとの作業もスムーズです。

USBによるコンピューター接続 SDカード・スロット搭載

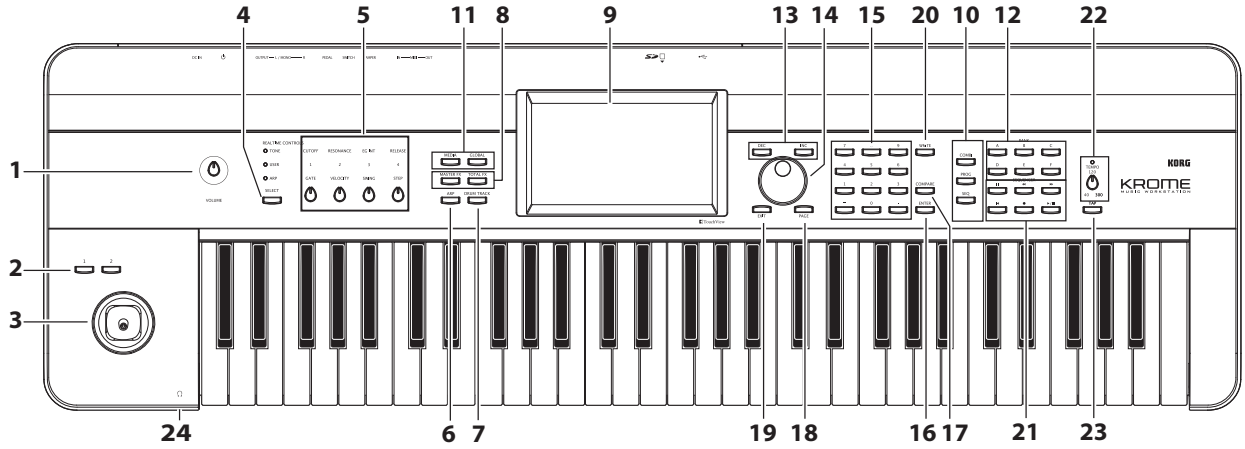
USBでコンピューターに接続して、MIDIデータのやり取りが簡単に行えます。また、SDカード（市販）を使用すれば、KROMEのファイル・データが簡単に管理できます。

KROMEサウンド・エディター

KROME Editor、KROME Plug-In Editorでは、コンピューターで一度に多くのパラメーターを確認しながらエディットしたり、KROMEをDAWでソフト・シンセのように扱うことができます。

* KROME用サウンド・エディターは、KORG Webサイト (http://www.korg.co.jp/) に公開されている最新版をダウンロードしてご利用ください。

フロント・パネル



*図はKROME–61です。

ボリューム

1. [VOLUME]ノブ
AUDIO OUTPUT L/MONO、R端子とヘッドホン端子から出力する音量を調節します。

SW1, 2, ジョイスティック

2. [SW1]、[SW2]スイッチ
鍵盤のオクターブ変更やポルタメント機能のオン/オフ、ジョイスティック・ロック機能など、お好みの動作を割り当てて使用するスイッチです。音源のAMSやエフェクトのDmodを利用することで、音色やエフェクト効果を高度にコントロールすることもできます。

3. ジョイスティック
ジョイスティックを上下左右に操作することによって、各種プログラム・パラメーターやエフェクト・パラメーターをコントロールします。

REALTIME CONTROLS

4つのノブと1つのスイッチから構成されているリアルタイム・コントローラーです。

4. [SELECT]スイッチ
5. ノブ[1]～[4]
ノブ[1]～[4]でコントロールする機能を[SELECT]スイッチで選択します。演奏時にノブ[1]～[4]を操作することによってサウンド、エフェクト、アルペジエーター等をコントロールします。(→p.13「リアルタイム・コントロール」参照)

アルペジエーター

6. [ARP]スイッチ
アルペジエーター機能をオンまたはオフにします。オンのときはスイッチが点灯します。(→p.14参照)

ドラムトラック

7. [DRUM TRACK]スイッチ
ドラムトラック機能をオンまたはオフにします。

また、ドラムトラックの動作状態を表示します。(消灯：オフ、点滅：トリガー待機中、点灯：オン)(→p.14参照)

エフェクト・スイッチ

8. [MASTER FX]、[TOTAL FX]スイッチ
マスター・エフェクトとトータル・エフェクトのオン/オフを切り替えます。スイッチがオン(LED点灯)のときエフェクトが有効になります。スイッチがオフ(LED消灯)のときは各エフェクトがオフになります。

このスイッチのオン/オフは、プログラムやコンビネーション、ソングを切り替えても維持されます。

ディスプレイ

9. ディスプレイ
タッチ・パネル式のタッチビュー・システムを搭載しています。(→p.10参照)

モード

10. [COMBI], [PROG], [SEQ],スイッチ
11. [GLOBAL], [MEDIA]スイッチ
各モードに入るためのスイッチです。KROMEには5つのモードがあります。スイッチを押して各モードに入ります。
(→p.11「モードを選択する」参照)

PROG/COMBI BANK

12. [A], [B], [C], [D], [E], [F]スイッチ
プログラムのバンクA～F、コンビネーションのバンクA～Dを切り替えます(→p.12参照)。また、コンビネーションのティンバー・プログラムのバンクや、ソングのトラック・プログラムのバンクを切り替えます。

プログラムのGMバンクを選択する場合は、テン・キー（→下記16、p.12参照）またはBank/Program Selectメニュー（→p.13参照）を使用します。

バリュー・コントローラー

ディスプレイ上で選択した パラメーターを、これらのコントローラーでエディットします。

13. [INC] [DEC]スイッチ
14. [VALUE]ダイヤル
15. テン・キー[0]〜[9], [–], [.]
16. [ENTER]スイッチ
選択したパラメーターの値を設定します。

17. [COMPARE]スイッチ
エディット前後のサウンドを比較します。

ページ・セレクト, EXIT

18. [PAGE]スイッチ
ディスプレイに、モード内の各ページの一覧ページ・セレクト（Page Select）が表示されます。移動したいページ・ボタンを押すと、そのページが表示されます。（→OG p.9参照）

19. [EXIT]スイッチ
現在のモードのメイン・ページに戻ります。

保存（ライト）

20. [WRITE]スイッチ
プログラム、コンビネーション、グローバル・セッティング、ドラムキット、アルペジオ・パターンをインターナル・メモリーに保存します。（→p.20参照）

また、ソングをメディアに保存します。（→p.21参照）

シーケンサー

このセクションのスイッチはSequencerモードでのレコーディング/プレイバックなどで使用します（→OG p.54参照）。[●] (REC)スイッチはレコーディング以外に、プログラム、コンビネーションのオート・ソング・セットアップ機能を使用するときにも使用します。（→p.16参照）

21. [▮▮] (PAUSE)スイッチ, [◀◀] (<<REW)スイッチ, [▶▶] (FF>>)スイッチ, [▮◀] (LOCATE)スイッチ, [●] (REC)スイッチ, [▶ / ■] (START/STOP)スイッチ

テンポ

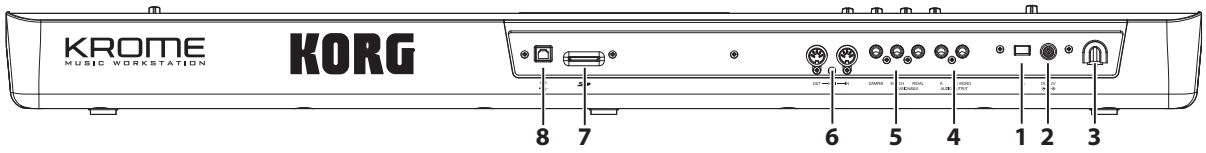
22. [TEMPO]ノブ, [TEMPO] LED
アルペジエーター、ドラムトラック、内蔵シーケンサーのテンポを調整します。
LEDは4分音符のタイミングで点滅します。

23. [TAP]スイッチ
アルペジエーター、ドラムトラック、内蔵シーケンサーのテンポを調整します。設定したいテンポに合わせて、スイッチを一定間隔で押すことによって、テンポを設定できます。

ヘッドホン

24. ヘッドホン端子
ヘッドホンのミニ・プラグを接続します。
（AUDIO OUTPUT L/MONOとR端子からの出力と同じ信号を出力します。
ヘッドホンの音量は[VOLUME]ノブで調節します。

リア・パネル



電源

「接続して電源を入れる」（→p.8）を参照して、正しい方法でご使用ください。

Note: KROMEは、鍵盤やフロント・パネルのスイッチなどを一定時間操作しなかった場合に自動的に電源をオフにするオート・パワー・オフ機能に対応しています。工場出荷時は4時間に設定されています。（→p.9「オート・パワー・オフ機能」参照）

1. 電源 スイッチ
電源を入れたり、切ったりします。

2. ACアダプター電源端子
付属のACアダプターを接続します。

ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

3. コード・フック

接続した付属のACアダプターのコードを固定します。

AUDIO OUTPUT

4. AUDIO OUTPUT L/MONO, R端子
ステレオのオーディオ出力です。音量は [VOLUME]ノブで調整します。

PEDALS

5. ASSIGNABLE PEDAL端子, ASSIGNABLE SWITCH端子, DAMPER 端子
ダンパー・ペダル、フット・スイッチ、フット・ペダルを接続します。接続することにより、コントロールできる機能や効果を増やすことができます。

MIDI

6. MIDI IN 端子, MIDI OUT 端子
ノート・データなどの演奏情報やサウンド設定などをMIDIで送受信します。

SDカード

7. SDカード・スロット
SDカードを挿入します。KROMEのプログラム、コンビネーションやソング・データなどをセーブ/ロードします。
(→p.20参照)

USB

8. USB端子(コンピューターとの接続用)
コンピューターとKROMEとの間で、ノート・データなどの演奏情報やサウンド設定などをMIDIで送受信します。

Note: KROMEのUSB端子は、MIDIデータの送受信のみが可能です。

接続して電源を入れる

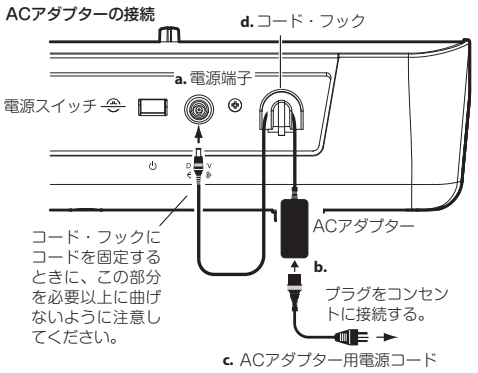
電源を入れる

Note: 最初に以下を確認してから接続を始めてください。

- 電源は必ずAC100Vを使用する。
- ACアダプターは必ず付属のものを使用する。
- KROME のフロント・パネル [VOLUME] ノブを左に回しきり音量を最小にする。
- KROMEの電源がオフになっていることを確認する。
- ミキサーまたはパワード・モニター・スピーカーなどの外部出力機器を接続する場合は、それらのボリュームを最小にし、電源をオフにする。

では接続を始めましょう。

1. 付属 ACアダプターの DC プラグを本機リア・パネルにある電源端子に接続します。
電源コードのプラグをコンセントに接続します。
DCプラグが抜けないようにコードを本機のコード・フックに固定します。



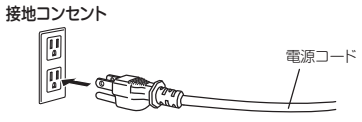
電源コードのコネクターをACアダプターに接続します。

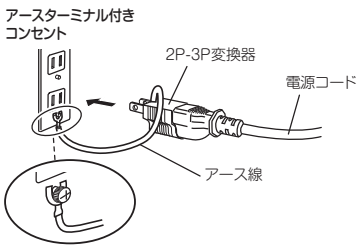
感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行ってください。

接地極付きコンセントに接続する場合
接地極付きコンセントにACアダプター用電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。(図上側)

アース端子付きコンセントに接続する場合
ACアダプター用電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。(図下側)

警告: アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。





2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずしてください。

接続方法が分からないときは、コルグお客様相談窓口にご相談ください。

2. KROMEのAUDIO OUTPUT L/MONOとRをお使いのミキサーまたはパワード・モニター・スピーカーに接続します。

- ヘッドホンでモニターする場合は、KROME 本体の左手前側にあるヘッドホン端子に接続します。このヘッドホン端子からはステレオ・アウト（AUDIO OUTPUT L/MONO、Rと同様）と同じ信号を聞くことができます。

3. KROME の電源スイッチを入れます。本体リア・パネルの[POWER]スイッチを押します。

オート・パワー・オフ機能が有効なとき、起動完了時にオート・パワー・オフによって電源が切れる時間が表示されます。このダイアログが表示されないときは、オート・パワー・オフ機能が無効で、自動的に電源が切れないように設定されています。(→「オート・パワー・オフ機能」参照)

4. 外部出力機器の電源を入れ、適切な音量に設定します。

5. 鍵盤を演奏しながら、徐々に[VOLUME]ノブを適度な音量になるまで右に回します。

電源を切る

KROMEを使用し終えたら、本体リア・パネルの[POWER]スイッチを押して電源を切ります。

プログラムやコンビネーション、グローバル設定をエディットしたら、電源を切る前に本体にライト(保存)してください。保存せず電源を切るとエディット内容が消えてしまいます。また、ソング・データは本体にライト(保存)することができません。作成したソング・データを再び使用する場合は、電源を切る前に SDカードにセーブ（保存）して、再起動後にロードしてください。(→p.20「エディットしたデータを保存する」)

KROMEはオート・パワー・オフ機能が有効な場合、一定時間操作が行われないと自動的に電源がオフになります。オート・パワー・オフ機能によって電源が切れた場合も保存されていないデータは消えてしまいます。

ライト（保存）などで、本体にデータを書き込む処理の最中に電源を切ると、本体内のデータが壊れることがあります。処理中は絶対に電源を切らないでください。
処理中は次のメッセージが表示されます。
"Now writing into internal memory"

オート・パワー・オフ機能

KROMEは、鍵盤やフロント・パネルのスイッチなどを一定時間操作(*)しなかった場合に、自動的に電源をオフにするオート・パワー・オフ機能に対応しています。

* 操作には、[VOLUME]ノブを含みません。

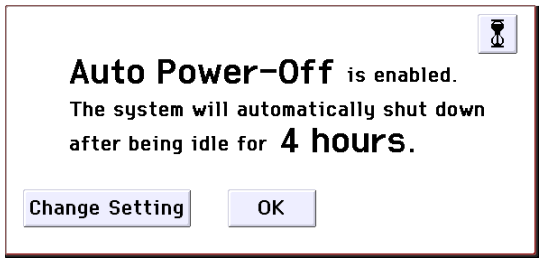
Note: 工場出荷時の設定では、約4時間操作しない状態が続くと電源が切れます。

電源が切れると編集中の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。

オート・パワー・オフ設定を変更する

起動完了直後のダイアログで変更する

オート・パワー・オフ機能によって電源が自動的に切れるように設定されている場合、起動完了直後にオート・パワー・オフによる終了時間が表示されます。



1. このメッセージが表示されている間に、ダイアログのChange Settingボタンを押します。
ダイアログが表示されます。

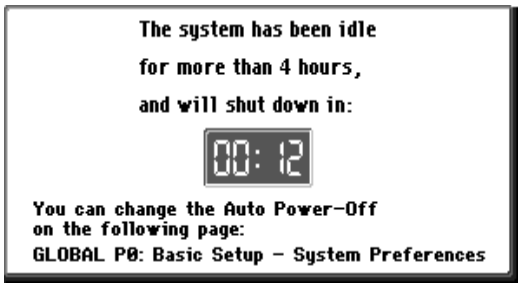
2. オート・パワー・オフ機能によって自動的に電源が切れる時間を、ポップアップ・ボタンを押して選択します。電源が切れないように設定する場合はDisabledを設定してください。

Note: 起動完了直後にこのダイアログが表示されないときは、オート・パワー・オフ機能がDisabled、つまり自動的には電源が切れないように設定されています。

Note: 使用途中でもオート・パワー・オフの設定を変更することができます。(→OG p.14参照)

オート・パワー・オフ機能が表示する警告メッセージ

本体の操作が行われないまま一定の時間が経過すると、オート・パワー・オフ機能によって、まもなく電源が切れることを知らせるメッセージが表示されます。



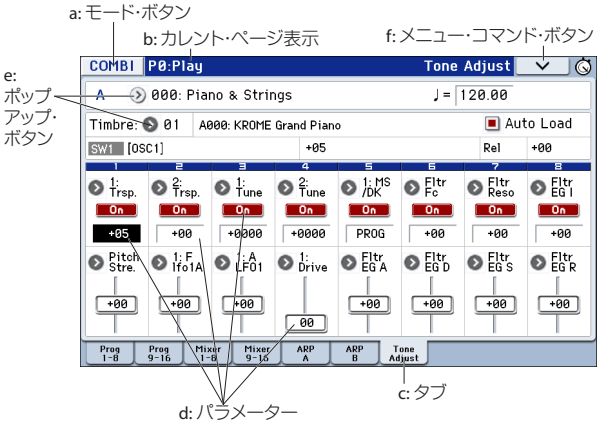
継続してご使用になる場合は、鍵盤やスイッチ、ディスプレイを押してください。オート・パワー・オフはリセットされ、再度、設定されている一定時間操作しなかった場合に同じメッセージを表示します。

ディスプレイとモードについて

ディスプレイ

KROMEのディスプレイは、タッチ・パネル式のタッチビュー・システムを採用しています。

ディスプレイに表示されるオブジェクトを押したり、ドラッグしたりすることで、プログラムやコンビネーションの選択や、パラメーターの値を設定します。ここではディスプレイのオブジェクトの名称や機能について説明します。



a: モード・ボタン

現在選ばれているモードを示します。

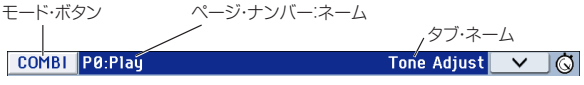
このボタンを押すとモード・メニューが表示されます。モード・メニューで移動したいモード・ネームを押します。現在選択しているモードを選んだ場合、そのモードのページ・セレクト（Page Select）メニューを表示します。また、その他のモードでもネームの右側を押すと、各モードのページ・セレクトが表示されます。
Closeボタンを押すか、[EXIT]スイッチを押すと、メニューが閉じます。

各モードとページ・セレクトは、フロント・パネルの各スイッチを押しても選択することができます。各モード・スイッチを押してモードを選び、[PAGE]スイッチでページ・セレクトを表示します。

b: カレント・ページ表示

現在選ばれているモードのページを表しています。

左から、ページ・ナンバー：ネーム、タブ・ネームです。

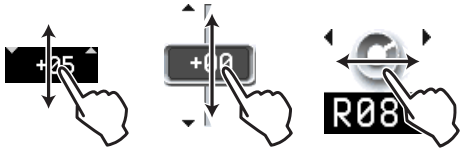


c: タブ

タブを押してページを選びます。

d: パラメーター

ディスプレイにはさまざまな設定を行うためのパラメーターが配置されています。ディスプレイ上でパラメーターを選び、値を変更します。
[VALUE]ダイヤルなどのバリュー・コントローラー（→p.7参照）を使用して値を変化させたり、ディスプレイ上で指をドラッグして値を変えたり、押すことによってオン/オフを切り替えるものなどがあります。



その他、連続して二度押す、または長押しして離すと、エディット・パッド（→OG p.6参照）が表示され、そこで値を変えられるパラメーターがあります。

e: ポップアップ・ボタン

ポップアップ・ボタンを押すと、選択可能なパラメーターの値が、ポップアップ・メニューやタブ付きのメニューで表示されます。

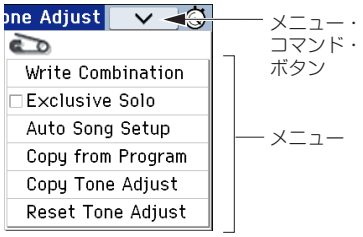
f: メニュー・コマンド・ボタン

＊ メニュー

このボタンを押すと、メニュー・コマンドが表示されます。コマンドを選び実行します。

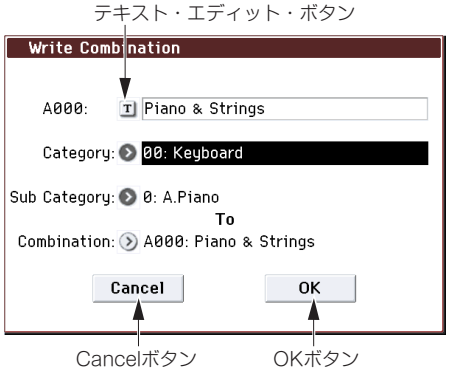
選択しているページによって、表示されるメニュー・コマンドが異なります。

ディスプレイ上でメニュー以外の場所を押すか、[EXIT]スイッチを押すと、メニューが閉じます。



＊ ダイアログ

メニュー・コマンドを選択すると、コマンドを実行するために必要な設定を行う画面が表示されます。これをダイアログと呼びます。選択するメニュー・コマンドによって、表示されるダイアログは異なります。なお、“Exclusive Solo”などのようにダイアログを表示しないコマンドもあります。



＊ テキスト･エディット･ボタン

このボタンを押すと､テキスト･エディット･ダイアログが表示されます。

この画面で､テキスト(プログラム､コンビネーション､ソングの各ネーム等)をリネームします。

＊ OKボタン､Cancelボタン

メニュー・コマンドなどを実行するときはOKボタンを押します。実行しないときはCancelボタンを押します。ダイアログが閉じます。[ENTER]スイッチは､OKボタンに相当します。[EXIT]スイッチはCancelボタン、Doneボタン、Exitボタンに相当します。

モードを選択する

KROME には、プログラムやコンビネーションの演奏とエディット、ソングのレコーディングとプレイバック、メディアの管理等のさまざまな機能があります。これらの機能をグループ化したものがモードです。KROMEには5つのモードがあります。各モード・スイッチを押して、モードを呼び出します（→p.6参照）。

Program（プログラム）モード

プログラムは、最も基本となるサウンドです。

Programモードでは次のことが行えます。

- プログラムを選択して、演奏します。
- アルペジエーターを1つ使用して、アルペジオ・パターンを演奏します。
- ドラムトラック・パターンをプレイバック（再生）しながら、プログラムを演奏します。
- プログラムをエディットします。
  リアルタイム・コントロール、トーン・アジャスト機能による簡易エディットが可能です。
  オシレーター、フィルター、アンプ、EG、LFOや、その他、エフェクト、アルペジエーター、ドラムトラック等を設定します。
  最大5基のインサート・エフェクト、2基のマスター・エフェクト、1基のトータル・エフェクトを設定します。
  ドラムキット（Globalモードで作成）を使用したドラムス・プログラムを作成します。

Combination（コンビネーション）モード

コンビネーションは、複数（最大16）のプログラムを組み合わせたもので、単独のプログラムでは実現できない複雑なサウンドを作り出すことができます。Combinationモードでは次のことが行えます。

- コンビネーションを選択して、演奏します。
- 2 つのアルペジエーターによるアルペジオ・パターンを、複数のティンバーで演奏します。
- ドラムトラック･パターン用に1つまたは複数のティンバーを使用して､パターンをプレイバックしながら演奏します。
- 16パートのマルチ・ティンバー音源として使用します。
- コンビネーションをエディットします。
  トーン・アジャスト機能で、ティンバーのプログラムを簡易エディットできます。
  複数ティンバー（プログラム）のボリューム、パン、レイヤー /スプリットや、エフェクト、アルペジエーター、ドラムトラック機能等を設定します。
  最大5基のインサート・エフェクト、2基のマスター・エフェクト、1基のトータル・エフェクトを設定します。

Sequencer(シーケンサー)モード

ソングのレコーディング/プレイバック、エディットなどを行います。

- 16 マルチトラック･シーケンサーで､ソングをレコーディングおよびプレイバックします。
  最大16のトラックを同時にレコーディングできます。
  エクスクルーシブ・メッセージのレコーディングが可能です。
- 2 つのアルペジエーターによる演奏を複数のトラックにプレイバック/レコーディングします。
- ドラムトラック・パターン用に1つまたは複数のトラックを使用して、パターンをプレイバック/レコーディングします。
- ソングをエディットします。
- 16パートのマルチ･ティンバー音源としても活用できます。
- GM/GM2の再生にも対応しています。
- トーン・アジャスト機能で、簡易エディットしたプログラムのサウンドでレコーディングします。
- 最大 5 基のインサート・エフェクト、2 基のマスター・エフェクト、1基のトータル・エフェクトを設定します。
- RPPR（リアルタイム・パターン・プレイ / レコーディング）機能を使った演奏、レコーディングとその設定を行います。
- 複数のソングを任意に並べてプレイバックするキュー・リストを作成します。1曲にまとめることもできます。
- ユーザー・ドラムトラック・パターンを作成します。

Global（グローバル）モード

本体全体に関係する設定、ドラムキット、アルペジオ・パターンなどをエディットします。

- マスター・チューン、グローバル MIDI チャンネル等、本体全体に関係する設定を行います。
- ユーザー・スケールを作成します。
- ドラムサンプルを使用したユーザー・ドラムキットを作成します。
- ユーザー・アルペジオ・パターンを作成します。
- プログラム、コンビネーションのカテゴリー・ネームを変更します。
- アサイナブル・ペダル、アサイナブル・スイッチの機能を設定します。
- MIDIエクスクルーシブ・データのダンプ出力を行います。

Media(メディア)モード

SDカードに対して、データをセーブ、ロードします。

- 各モードのデータをメディアにセーブおよびメディアからロードします。
- SDカードをフォーマットします。
- メディアのデータをコピーするなどのファイル操作をします。
- Sequencer モードで作成したソングを SMF フォーマットでセーブします。またSMFファイルをSequencerモードのソングとしてロードします。
- データ・ファイラー機能（MIDI エクスクルーシブ・データのセーブ/ロード）を操作します。

演奏する

プログラム、コンビネーションを選ぶ

プログラムをバンク、ナンバーから選ぶ (A)

プログラムは次の手順で選択します。

Programモードの特長や機能などについては、「Program（プログラム）モード」（→p.11）をご覧ください。

1. フロント・パネルにある [PROG] スイッチを押すとスイッチのLEDが点灯し、Programモードに入ります。

   このとき、ディスプレイの左上部には現在開いているページ名である「PROG P0: Play」が表示されます。このページがプログラムを演奏するためのページです。

   ディスプレイ上の大きな文字がハイライトされている部分（“Program Select”）をご覧ください。これが現在選択しているプログラムの番号と名前です。この部分がハイライトになっているときは、[INC]、[DEC] スイッチでそのひとつ次の、またはひとつ前の番号のプログラムを選択することができます。

   また、[VALUE]ダイヤルを回して番号の離れたプログラムを選択したり、テン・キーと[ENTER]スイッチを使って希望のプログラム番号をダイレクトに選択したりすることも可能です。

2. 別のバンクのプログラムを選択する場合は、BANK [A]～[F]スイッチを押します。バンクA～Fがそれぞれ選択できます。

   GMバンクを選ぶには、テン・キー[0]を押しながら[-]、[1]～[9]または[.]を押します。バンクGM、GMバリエーションg(1)～g(9)、GMドラムス・プログラムg(d)がそれぞれ選択できます。

プログラムをカテゴリーから選ぶ (B)

プログラムをキーボードやオルガン、ベースやドラムといったカテゴリーから選択する方法を説明します。

1. Category/Program Selectポップアップ・ボタンを押します。

   Category/Program Selectメニューが表示されます。

   図では、Keyboardカテゴリーが選ばれています。メニューは、そのカテゴリーに含まれるプログラムです。

2. 別のカテゴリーを選ぶときは、ディスプレイ左右にあるタブを押します。

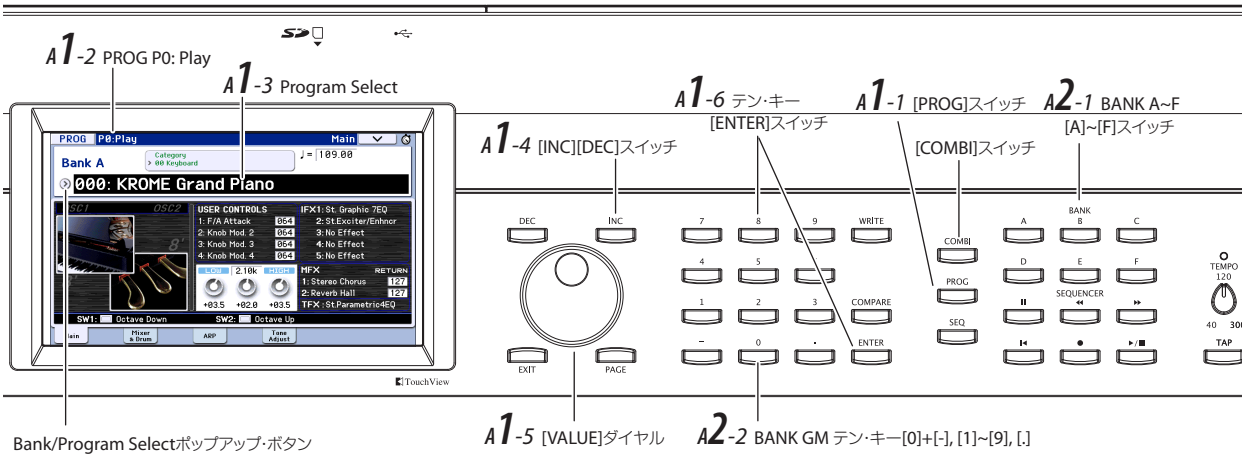
3. メニューのプログラム・ネームを押してプログラムを選びます。

   選んだプログラムが反転表示になり、プログラムが切り替わります。[INC][DEC]スイッチや[VALUE]ダイヤルでも切り替わります。

   メニューには一度に16個のプログラムが表示されます。スクロール・バーでリストをスクロールすることで、他のプログラムを表示させることができます。

   鍵盤を弾いて、選んだプログラムの音を確認することができます。

プログラムをバンク、ナンバーから選ぶ



プログラムをカテゴリーから選ぶ

4. サブ・カテゴリーから選ぶときは、"Jump to Sub"ボタンを押して、Sub Category/Prog Selectメニューを表示します。

   左タブを押して、サブ・カテゴリーを選びます。

   上記手順3を参照して、プログラムを選んでください。

   選択を有効にするときはOKボタンを、解除するときはCancelボタンを押します。メイン・カテゴリーに戻ります。

5. 選択したプログラムでよい場合は、OK ボタンを押してメニューを閉じます。

   Cancelボタンを押すと、ここでの選択は無効となり、メニューを開く直前のプログラムに戻ります。

Note: "Program Select"の左側のポップアップ・ボタンを押すと、バンクごとに区分されたBank/Program Selectメニューが表示されます。操作手順は「プログラムをカテゴリーから選ぶ (B)」と同様です。

その他の方法については、オペレーション・ガイドの「プログラムの選択」（→OG p.21）をご参照ください。

プログラム・バンクの内容について

KROMEのプログラム総数は1,033です。すぐに使用できるデータとして工場出荷時には640のプリロード・プログラムと265のGMプログラムが本体に保存されています。残りの128プログラムは初期状態（イニシャル）で、オリジナルのプログラムなどを保存するために設けられています。バンクGM～g(d)を除くバンクA～Fのすべてのプログラムはエディットして上書き保存することもできます。

プログラム・バンク内容

Bank	No.	Contents
A...E	000...127	プリロード・プログラム
F	000...127	イニシャル・プログラム
GM	001...128	GM2キャピタル・プログラム
g(1)…g(9)		GM2バリエーション・プログラム
g(d)		GM2ドラムス・プログラム

コンビネーションを選ぶ

コンビネーションは次の手順で選択します。

コンビネーションについては、「Combination （コンビネーション）モード」（→p.11）をご覧ください。

1. [COMBI]スイッチを押してCombinationモードに入ります。

   このとき[COMBI]スイッチのLEDが点灯します。

   Combinationモードに入ると、Programモードと同様にバンクとナンバーやカテゴリーなどでコンビネーションを選択することができます。

コンビネーション・バンク内容

Bank	No.	Contents
A...C	000...127	プリロード・コンビネーション
D	000...127	イニシャル・コンビネーション

コントローラーを使ってサウンドに変化をつける

ジョイスティック、SW1、SW2

KROMEのフロント・パネルの左側にあるジョイスティック（→p.6）、SW1、SW2（→p.6）は演奏用のコントローラーです。これらのコントローラーを使用してサウンドに変化をつけることができます。

コントローラーによるサウンド変化は、プログラムやコンビネーションごとに異なります。標準的な機能以外にも、個々のサウンドを際立たせる効果を与えたり、またそうした設定を組み合わせたりすることができます。それぞれのコントローラーがどのような役割を担っているのかを確認してください。

標準的なジョイスティックの機能

ジョイスティックの方向（コントローラー名）	機能
左側(JS–X)	ピッチ・ダウン効果
右側(JS+X)	ピッチ・アップ効果
奥側(JS+Y)	ビブラート効果
手前側(JS–Y)	フィルターLFO(ワウワウ)

リアルタイム・コントロール

フロント・パネルの左にあるリアルタイム・コントロール（→p.6）は、プログラムやコンビネーション演奏時のサウンド・コントロールのため、また簡易的なサウンド・エディットを行うために使用します。その他、アルペジエーターをコントロールするために使用します。

1. [SELECT]スイッチを押して、ノブ[1]～[4]でコントロールする機能を選びます（LED点灯）。

   TONE、USERではサウンドを、ARPではアルペジエーターをコントロールします。

2. ノブ[1]～[4]を回して、音色やエフェクト音、アルペジオ・パターンが変化するのを確認してください。

   ノブを回したとき、ディスプレイにコントローラー名とその値がポップアップに表示されます。

- [SELECT] TONE選択時、フィルター・カットオフ、フィルター・レゾナンス、フィルターEGインテンシティ、フィルター EGリリース・タイムがそれぞれコントロールできます。
- [SELECT] USER選択時、ノブ[1]～[4]はプログラムやコンビネーションごとに設定できるため、さまざまな機能がアサインされています。多くの場合（「常に」ではありませんが）、ノブ[1]、[2]はシンセ・パラメーター、ノブ[3]はコーラスなどのモジュレーション・エフェクトのデプス、ノブ[4]はリバーブ・デプスがコントロールできます。
- [SELECT] ARPについては、次項をご覧ください。

アルペジエーターによる演奏

プログラムでは1つのポリフォニック・アルペジエーターが使用できます。コンビネーションとシーケンサーでは2つのポリフォニック・アルペジエーターが使用できます。

アルペジエーターをオン/オフする

1. 演奏するプログラムまたはコンビネーションを選びます。
2. [ARP]スイッチを押してLEDを点灯させます。

   アルペジエーターがオンになります。
3. 鍵盤を押さえます。

   アルペジオ演奏が始まります。(アルペジエーターが鍵盤上の特定音域にのみ反応するように設定されているサウンドもありますので注意してください。)

アルペジオ・パターンをコントロールする

1. [SELECT]スイッチを押してARPのLEDを点灯させます。
2. ノブ[1]～[4]（GATE、VELOCITY、SWING、STEP）を回すと、パターンが変化します。

   また、アルペジエーターの演奏中にリアルタイム・コントロールをTONEまたはUSERにしてサウンドを変化させるのも効果的です。

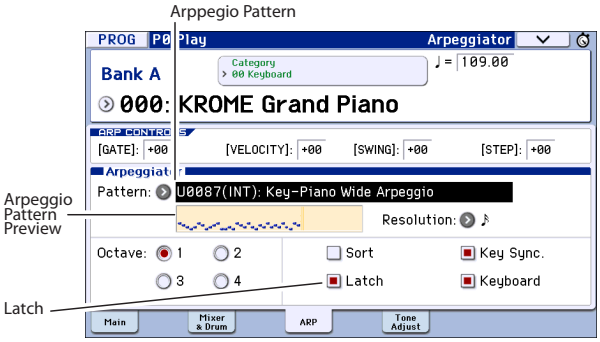
   工場出荷時のプログラムやコンビネーションには、それぞれのサウンドにあったアルペジオ・パターンがアサインされています。さまざまなカテゴリーのプログラムやコンビネーションを選択して、アルペジエーターをオンにして、演奏してみてください。
3. [TEMPO]ノブ、[TAP]スイッチでテンポを調整します。(→p.7参照)

Programモード

プログラムは、P0: Play– Arpeggiatorページの"Pattern"でパターンを切り替えることができます。

1. [PROG]スイッチ、ARPタブを順番に押します。
2. "Pattern" ポップアップ・ボタンを押して、パターンを選びます。

また、このページでLatchをチェックすると、鍵盤から手を離した後もアルペジオ演奏が継続します。チェックをはずすと、鍵盤から手を離したときにアルペジオ演奏が停止します。



Combinationモード、Sequencerモード

コンビネーションとシーケンサーではP0のArpeggiator A, Bページで設定します。2つのアルペジエーターを動作させるかを"Run"パラメーターで設定します。

ドラムトラックを使用する

ドラムトラックをオン/オフする

1. [DRUM TRACK]スイッチを押します。

   設定によって、ドラムトラックによる演奏がすぐに始まるものがあり、鍵盤を弾くと同時に演奏が始まります。このスイッチのLEDが点滅しているときは、鍵盤による演奏を待っている状態です。
2. [TEMPO]ノブ、[TAP]スイッチでテンポを調整します。(→p.7参照)

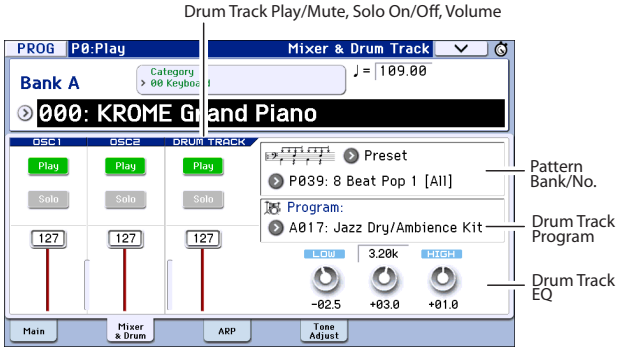
ドラムトラックのパターンとサウンドを選択する

Programモード

Programモードでは、ドラムトラックは専用のミキサー・チャンネルとプログラム・セレクト・パラメーターが用意されています。プログラムのドラムトラックの設定手順は次の通りです。

1. [PROG]スイッチ、Mixer & Drumタブを順番に押します。

   Mixer & Drum Trackページが表示されます。



2. ディスプレイ右側のPattern Bank/No.の2つのポップアップ・ボタンでドラムトラック・パターンを選びます。

   Note: バンクUserのInitDrumPatternなど、データがないパターンやバンクPresetのP000: Offでは、[DRUM TRACK]スイッチがオンになりませんので注意してください。
3. ディスプレイ右側のDrum Track Programにある"Program"ポップアップ・ボタンで、パターンを鳴らすプログラムを選びます。
4. 左側のボタンでミュートとソロ設定、スライダーで音量を調整できます。Drum Track EQでは、ドラムトラック・プログラムのEQを調整できます。

Combinationモード、Sequencerモード

コンビネーションとソングでは、ドラムトラックは16MIDIティンバー/トラックのうちの1つ（または複数）のティンバー/トラックを使用します。ドラムトラックのアウトプットMIDIチャンネルをそのティンバー/トラックと同じチャンネルに合わせます。

詳しくは、「Combinationモードでのドラムトラック機能の設定」（→OG p.101）を参照してください。

プログラム、コンビネーションの簡易エディット

EQや音量バランスを調節する

プログラムでは、P0: Play–Mainページのディスプレイで、プログラムのEQとマスター・エフェクトのリターン量を調節することができます。

P0: Play–Mixer & Drum Trackページではオシレーター 1、2、ドラムトラックの音量バランスを調節できます。ここではドラムトラック・プログラムのEQも調節できます。

トーン・アジャストを使う

KROMEでのトーン・アジャスト機能は、音作りに効果的なプログラム・パラメーターをディスプレイ上のボタンやスライダーに割り当てたものです。これらを調節することによって、効率的に音作りが行えます。

1. プログラムのP0: Play– Tone Adjustページを表示します。[PROG]スイッチ、Tone Adjustタブを順番に押します。
2. ディスプレイ上のスライダーやボタンを操作して調節します。VALUEコントローラーで調節することもできます。

   プログラムやコンビネーションごとにスライダーやノブにアサインされているパラメーターは異なります。(なお、サウンドによっては効果が分かりづらい場合もあります)

   例えば、スライダーの"Pitch Stre."は元音のキャラクターを損なうことなく豊かな音色変化やバリエーションが得られます。"1: F lfo IA"はワウ、"1: A lfo IA"はビブラート、"1:Drive"はサウンドを微妙に太くしたり、極端なディストーションをかけたりすることができます。

   "F/A EG A"、"F/A EG D"、"F/A EG S"、"F/A EG R"はフィルターとアンプのEGのアタック・タイム、ディケイ・タイム、サステイン・レベル、リリース・タイムをコントロールします。

   ボタンの1:TrspはOnにするとオシレーター 1のトランスポーズにボタン下の数値の効果が付加され、音高が上下します。

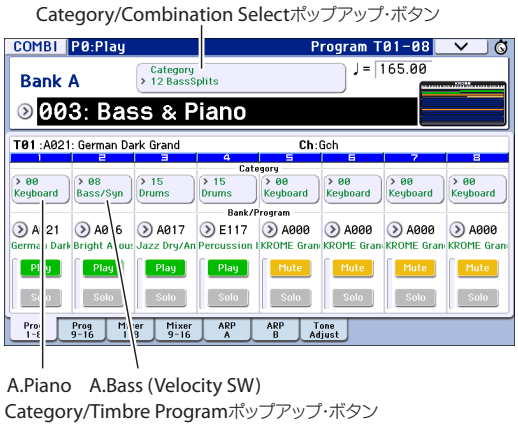
ティンバーのプログラムや音量バランスを調節する

コンビネーションは、プログラムを最大16のティンバーに割り当てたもので、厚みのある音や複雑な音が得られます。

1. CombinationモードでCategory Selectポップアップ・ボタンを押して、タブ12 Bass Splitsの中からA003: Bass & Pianoを選びます。カテゴリー Bass Splitsは低音域がベース音、高音域では異なる音が鳴るスプリット・タイプです。Bass & Pianoはティンバー1にアコースティック・ピアノ、ティンバー 2と3にアコースティック・ベースが割り当てられています。
2. ピアノの代わりにオルガンが鳴るようにしてみましょう。

   ティンバー1のCategory/Timbre Programポップアップ・ボタンを押してリストを表示します。

   リスト左側のタブ01 Organを押して、リストからプログラムを選びます。OKボタンを押して決定します。



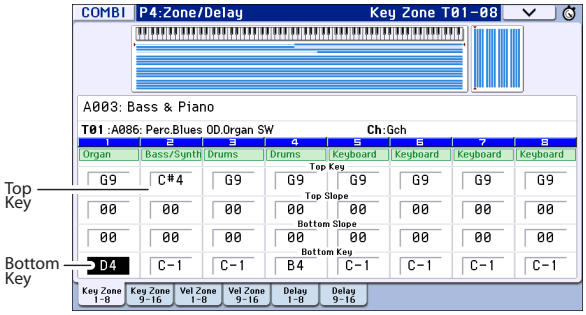
3. 鍵盤を弾いてください。C4から上の鍵盤でオルガンの音、B3から下でベースの音が鳴ることを確認できます。
4. オルガンとベースのパン（定位）と音量を調節してみましょう。

   ディスプレイ下部のMixer 1-8タブを押します。各ティンバーのPan（パン）ノブ、Volumeスライダーを操作して調節します。
5. オルガンとベースの音が切り替わるスプリット・ポイントを変更してみましょう。

   [PAGE]スイッチを押してPage SelectのP4 Zone/Delayを押します。タブKey Z 1-8を押してP4: Zone/Delay– Key Zone T01–08ページを表示します。

   ティンバー 1の"Bottom Key"を押しながら鍵盤を押します。オルガンが鳴る一番低いポイントが設定されます。

   ベース用ティンバーの"Top Key"を押しながら、先程設定したオルガンの最低音より半音下の鍵盤を押します。ベースが鳴る一番高いポイントが設定されます。



シーケンサーを使う

演奏をレコーディングする

オート・ソング・セットアップ

オート・ソング・セットアップは、現在選択しているプログラムやコンビネーションをソングにコピーし、自動的にレコーディング待機状態にする機能です。

プログラムやコンビネーションを演奏していて、曲のイメージやフレーズが浮かんだときに、この機能を使ってレコーディングをすぐに始めることができます。

ここではProgramモードを選んでいる状態からの手順を説明します。レコーディングするプログラムを選び、必要に応じて[ARP]や[DRUM TRACK]スイッチをオンにして、アルペジエーターやドラムトラックによる演奏も加えてください。

1. SEQUENCER [●] (REC)スイッチを押します。

   ディスプレイのSetup to Recordダイアログに「Do you continue?」のメッセージが表示されます。

2. もう一度、[●]スイッチを押します。(OKボタンやENTERスイッチも使用できます)

   自動的にSequencerモードに移ってレコーディング待機の状態になり、テンポ(♩)に合わせてクリック音が鳴り始めます。必要に応じてテンポ(♩)を調節してください。(→p.7「テンポ」)

3. [▶/■] (START/STOP)スイッチを押すとシーケンサーがスタートしてレコーディングが始まります。

   デフォルトの設定では、実際にレコーディングが始まる前に2小節のカウントが入ります。

4. レコーディングしたいフレーズを演奏します。

5. 演奏し終えたら、[▶/■]スイッチを押してレコーディングを終えます。

   このとき、シーケンサーは自動的に曲の先頭に戻ります。

6. [▶/■]スイッチを押してレコーディングした結果を聴きます。

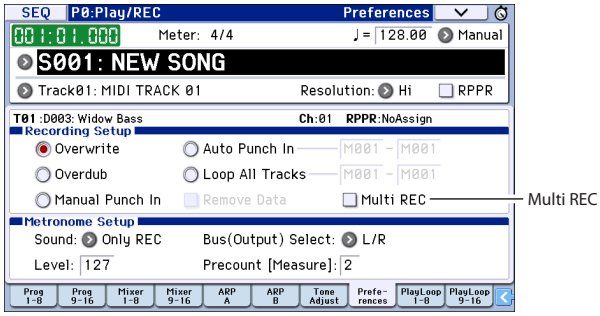
   Programモードでオート・ソング・セットアップを行った場合は、鍵盤で演奏したデータがトラック1にレコーディングされています。ドラムトラックを使用した場合、ドラムトラックのデータはトラック10にレコーディングされています。(Combinationモードの場合、より多くのトラックが必要に応じて使用されます。)

別のトラックにレコーディングする

オート・ソング・セットアップでレコーディングした演奏に、別の音色で演奏を重ねて(レコーディングして)みましょう。

1. Preferenceタブを押してP0-1: Play/REC– Preferenceページを表示します。右側の"Multi REC"チェック・ボックスをオフにします。

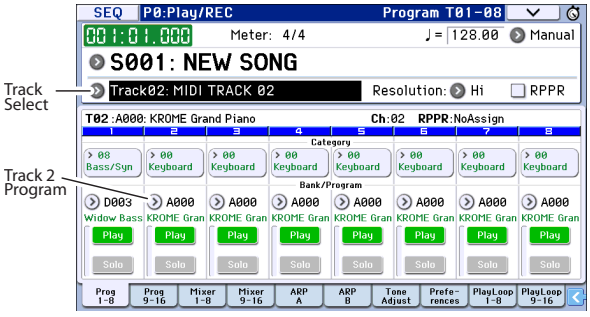
   Note: オート・ソング・セットアップは"Multi REC"を自動的にオンにし、プログラムのドラムトラックや、コンビネーションをマルチ・トラックでレコーディングします。



2. Prog 1-8タブを押してP0-1: Play/REC– Program T01–08ページを表示します。

3. ソング・ネームの下にある"Track Select"ポップアップでTrack 02を選びます。

   このパラメーターは鍵盤で演奏するトラックと、(Multi RECがオフの状態で)レコーディングされるトラックを選択するものです。



4. "Bank/Program"の列にあるポップアップ・メニューを使って、トラック2のプログラムを選択します。

5. [ARP]、[DRUM TRACK]スイッチをオンにしていた場合はオフにしてください。

6. [|◀](LOCATE)スイッチを押してソングの先頭に戻します。

7. [●]スイッチを押してレコーディング待機状態にし、[▶/■]スイッチを押します。レコーディングが始まります。

8. レコーディングしたいフレーズを鍵盤で演奏します。

9. 演奏を終えたら[▶/■]を押してレコーディングを終えます。

レコーディングした演奏を修正する

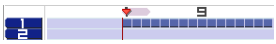
レコーディング後に演奏データを修正することができます。例えば、弾き損じた音を消去したり、音程やタイミングを修正したりします。

タイミングの修正

タイミングの修正はクォンタイズで行います。クォンタイズは、演奏した音のタイミングを、設定したビート（拍）に合わせる機能です。完全に合わせるだけでなく、細かい演奏のノリを残すことができます。また、演奏したデータに対して「スウィング」感を付け足すこともできます。では、レコーディングしたMIDIトラックにクォンタイズをかけてみましょう。

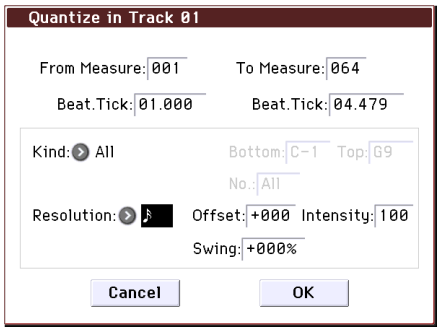
1. [PAGE]スイッチを押してPage SelectのP6 Track Editを押します。そしてTrack Editタブを押してP6: Track Edit– Track Editページに入ります。

   このページではシーケンサーの各トラックの状態をグラフィックで表示します。小さな長方形は、そのトラックに演奏データが入っていることを示しています。



2. “Track Select”でTrack 01を選びます。
3. ディスプレイ下部にある“From Measure”と“To End of Measure”パラメーターを使って編集する範囲を小節単位で指定します。この例では“From”を001に、“To End”を064に設定します。
4. メニュー・コマンド・ボタンを押して“Quantize”を選びます。

   クォンタイズ・ダイアログが表示されます。



5. “Resolution”を必要な音符（音価）に設定します。

   一般的には、レコーディングした演奏の一番短い音符を選択します。

6. OK ボタンを押して選択したデータにクォンタイズをかけます。

   クォンタイズの結果が期待していたものと異なる場合は、[COMPARE]スイッチを押してクォンタイズをする前の状態に戻し、クォンタイズ後の状態と聴き比べてください。“Resolution”の設定を変えたり、“Intensity”を100%以下の値に変えてクォンタイズの結果が自然な感じになるようにしたり、“Swing”の値を上げてシャッフルやスウィングした感じを作り出したりなど試してください。

   また、P0ページの上部にある“Resolution” (REC Resolution)でレコーディング中の演奏にクォンタイズをかけることもできます。“Resolution”をHi以外にすると、レコーディング中に演奏した演奏が設定タイミングにそろえられて記録されます。

音の修正や追加

音の移動や消去、音の長さや強さの変更、音を追加するなどの編集をするには、トラック・ビュー・エディットやピアノ・ロール・エディットを使用します。

トラックや小節単位で消去や移動、コピーを行うときはトラック・ビュー・エディットで作業すると便利です。

1. ([PAGE]スイッチを押してPage SelectのP6: Track Editを押します）そしてTrack Viewタブを押してP6: Track Edit– Track Viewページに入ります。
2. ツールを使用して、先頭小節および後尾小節を決めて編集範囲を設定します。
3. ツールを使用して、移動やコピー、消去を行います。

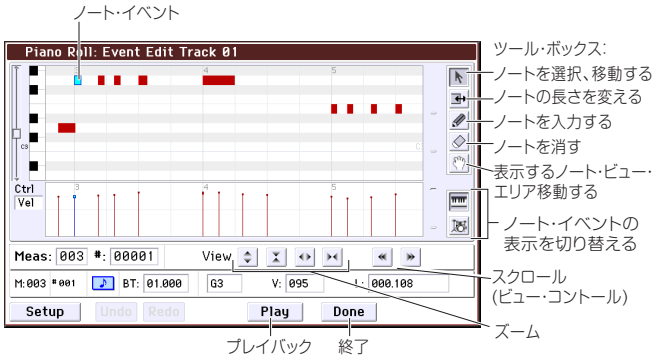
   詳しくはOG p.68を参照してください。

1音ずつやいくつかの音などノート単位で編集するときは、ピアノ・ロール・エディットが便利です。

1. ツールを使用して、先頭小節および後尾小節を決めて編集範囲を設定します。
2. ページ・メニュー・ボタンを押して“Piano Roll”を選びます。

   またはP6: Track Edit– Track Viewページの一番下のツール・ボックスを押します。

   ピアノ・ロール・ダイアログが表示されます。



3. ズーム・ボタンを使って作業しやすい大きさに拡大します。
4. ツールを使用してノートを編集します。

   詳しくはOG p.70を参照してください。

テンプレート・ソング

テンプレート・ソングは、音楽スタイルにマッチしたサウンドやエフェクトがセットになったもので、それらを使ってすぐに曲作りを始めることができます。また、プリセットだけでなく、よく使う設定やサウンドなどをオリジナルのテンプレート・ソングとして保存しておくこともできます。

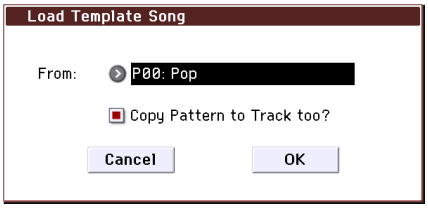
あらかじめ用意された16種類（P00～P15）のプリセット・データには、プログラム、ボリュームやパンなどのトラック・パラメーター設定と、エフェクト、アルペジエーター、ドラムトラックやテンポ等の設定情報が含まれています。

Note: テンプレート・ソングにはMIDIのノート・データやパターンは含まれません。

以下の例のようにロードしてください。

1. SequencerモードP0: Play/RECページに入り、ページ・メニュー・ボタンを押して"Load Template Song"を選択します。

   ダイアログが表示されます。

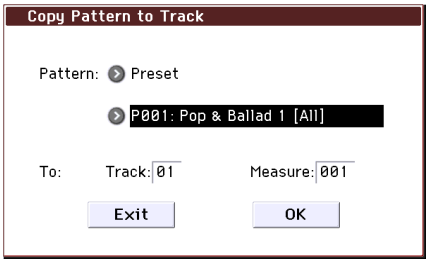


2. "From"でロードしたいテンプレート・ソングを選びます。
3. "Copy Pattern to MIDI Track too?"のチェック・ボックスにチェックを入れます。

   チェックを入れると、テンプレート・ソングのロードが終わった後、パターンをコピーするためのダイアログが表示されます。

   チェックが入っていない場合は、選択したテンプレート・ソングのロードのみを実行します。
4. OKボタンを押してテンプレート・ソングをロードします。（ロードを中止するときは、Cancelボタンを押してダイアログを閉じます）

   OKボタンを押すと、現在選択されているソングにテンプレート・ソングのセッティングがコピーされます。
   "Copy Pattern to MIDI Track too?"にチェックを入れていた場合、Copy Pattern to MIDI Trackダイアログが表示されますので、引き続き以下の設定を行ってください。
5. "Pattern" のバンク（User か Preset）とナンバーのポップアップ・ボタンで、コピーしたいパターンを選択します。



6. "Track"で、パターンを使うトラックを選択します。

   Note: 16種類のテンプレート・ソングそれぞれのトラック1は常にドラムス・プログラムがアサインされています。（トラック1以外にも別のドラムス・プログラムがアサインされているものもあります。）
7. "Measure" で、パターンの演奏を開始させたい小節位置を指定します。

   605種類のプリセット・パターンについては、そのパターンの音楽スタイルとそれに適したドラムス・プログラム名が略称で表示されます。

   ドラム用のトラックにプリセット・パターンをロードすることで、テンプレート・ソングに適したドラムトラックの設定を簡単に行うことができます。
8. OKボタンを押して、ドラム・パターンをロードします。

   パターンのロードが終わると、小節が自動的にカウントアップします。必要に応じて別のパターンをその次にコピーすることも可能です。例えば、曲の構成に沿って異なるパターンをつなぎ合わせて1曲分のパターンを作り上げることもできます。

   パターンのコピーを終えたら、[EXIT]スイッチを押すと完了します。

レコーディング方法は、「別のトラックにレコーディングする」（→p.16）を参照してください。

エフェクトを使う

KROMEは、サウンドに歪みやうねり、残響といったさまざまな音響効果を与えるフル・デジタル・エフェクトを、193種類搭載しています。5系統のインサート・エフェクト、2系統のマスター・エフェクト、1系統のトータル・エフェクトそれぞれに割り当てて、接続を設定することで、とても複雑な効果を得ることができます。

また、エフェクトをコントロールする機能も充実しています。本体のコントローラーを使用することで演奏中リアルタイムにエフェクトの効果をコントロールするダイナミック・モジュレーション機能(Dmod)が用意されています。

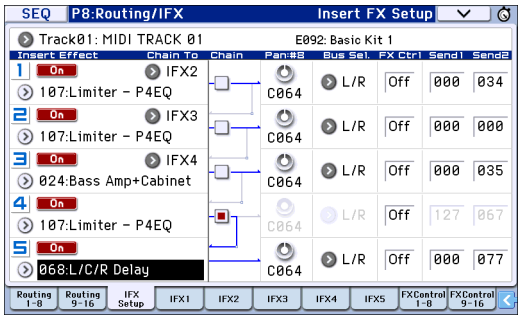
さらに、各エフェクトの効果を連動して変化させる コモンLFO、テンポにあわせて変化させる MIDI/Tempo Sync機能なども活用すれば、ハイレベルのサウンドで演奏することができます。

ルーティングとエフェクト設定

サウンドをどのエフェクトに送るかをルーティングで設定します。

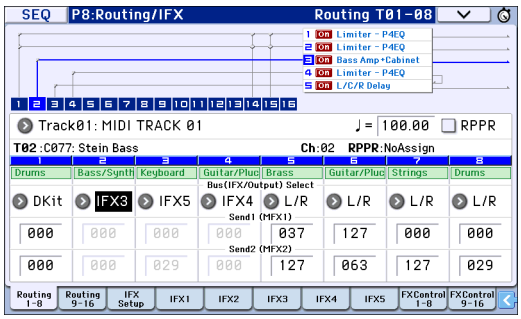
ここではソングを例に説明します。

1. 使用するインサート・エフェクトを選びます。Seq P8: Routing/IFX– Insert FX Setupページで設定します。



2. トラックごとの出力をどのエフェクトに送るかを設定します。Seq P8: Routing/IFX– Routing T01–08ページの“Bus (IFX/Output) Select”で設定します。例えば、トラック2の出力をインサート・エフェクト3へ入力する場合は、トラック2の“Bus (IFX/Output) Select”をIFX3に設定します。

   ディスプレイ上部にルーティング、インサート・エフェクト、チェインの設定の状態が表示されます。この例では、T01（トラック1）はDKitに設定されてIFX1と2を使用しています。これはドラムキットの設定が採用されています。T02はIFX3、T04はIFX4とIFX5をチェイン接続しています。

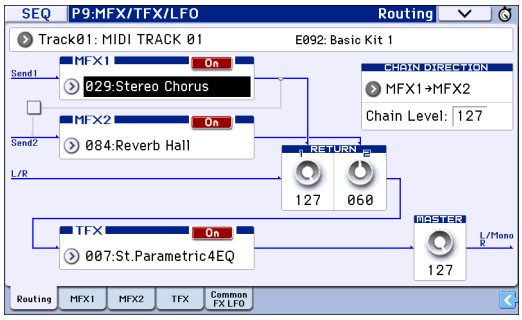


3. “Send1”、“Send2” では、マスター・エフェクトへのセンド・レベルをトラックごとに設定します。“Send1”がMFX1に、“Send2”がMFX2に対応します。

   このページの“Send1”、“Send2”は、“Bus (IFX/Output) Select”をL/RまたはOffに設定したときのみ設定できます。

   “Bus (IFX/Output) Select”をIFX1～5に設定しているときは、インサート・エフェクト通過後の“Send1”、“Send2”（P8: Routing/IFX– Insert FX Setupページ）でセンド・レベルを設定します。

4. Seq P9: MFX/TFX/LFO– Routingページを表示します。ここで使用するマスター・エフェクトとトータル・エフェクトを選びます。信号の流れを確認することもできます。



データを保存（ライトとセーブ）、読み込む（ロード）

エディットしたデータを保存する

ライトとセーブについて

KROMEのデータの保存方法には、ライトとセーブの2種類があります。

Note: ライトやセーブで保存される前に電源を切ると、それらのデータは失われます。大切なデータは必ず本体やSDカードに保存してください。

KROME本体のメモリーに保存することをライト（Write）といいます。プログラム、コンビネーション、アルペジオ・パターン、ドラムキット、グローバル設定などを保存することができます。

Note: ソングなどのデータは本体にライトすることができません。（→OG p.113「KROMEのデータ保存について」）

一方、SDカードに保存することをセーブ（Save）といいます。本体にライトできる上記のデータだけでなく、本体に保存できないソング・データなどをあわせて保存することができます。

Note: セーブには、各データを個別に保存するだけでなく、本体上のデータをまとめて保存できる機能があります。プログラムやコンビネーションなどのサウンド・データやグローバルの本体設定を、シーケンサーのソング・データとセットでセーブすれば、現在のKROMEの状態をまとめて管理できます。プロジェクト別やライブ用など、目的に応じて活用できます。

ライト

プログラムをライトする

エディットしたプログラムをインターナル・メモリーにライト（保存）する手順は、次の通りです。

1. [WRITE]スイッチを押します。

   保存設定を行うダイアログが表示されます。ここでプログラム・ネームやカテゴリー、保存先を設定できます。通常、保存先にはエディットをはじめたプログラムのバンクとナンバーが設定されています。

   同じ保存先に上書きする場合は、バンクやナンバーを変更せずに、手順3に進んでください。

   - プログラム・ネームの変更：
     「T」ボタンを押してテキスト・エディット・ダイアログを表示します。
     ディスプレイ上のキーボードを使って名前を付けます。
     OKボタンを押します。元のダイアログに戻ります。
   - カテゴリー、サブ・カテゴリー：
     Category、Sub Categoryポップアップ・ボタンを押して、リストからカテゴリーを選びます。元のダイアログに戻ります。
   - ライト先のバンク、ナンバー指定：
     Programポップアップ・ボタンを押して、タブでバンクを選び、リストからナンバーを選びます。
     OKボタンを押します。元のダイアログに戻ります。

2. もう一度[WRITE]スイッチを押すとライトが実行されます（OKボタンまたは[ENTER]スイッチを押しても実行されます）。

その他のデータのライト

コンビネーションでも同様の手順でライトすることができます。アルペジオ・パターンなど、サウンド以外のデータをライトするには、該当するページで行います。詳しくはOG p.115をご覧ください。

Note: [WRITE]スイッチを使用する以外に、ページ・メニューのWriteコマンドを使用することもできます。エフェクト・プリセットについてはWriteコマンドのみ対応しています。

セーブとロード

SDカードにデータをセーブする

KROME上で作成またはエディットしたデータはSDカードにセーブできます。KROMEでは数種類のファイルやデータを取り扱いますが、ここでは2つの代表的なファイル・タイプである.PCG、.SNGファイルについて説明します。

PCGとは、プログラム（P）、コンビネーション（C）、グローバル（G）の略です。PCGファイルには他にもユーザー・アルペジオ・パターン、ドラムキット、ユーザー・ドラムトラック・パターンが含まれます。

SNGはソング（Song）の略です。SNGファイルにはSequencerモードのすべてのソング・データが含まれます。

プログラムとソングを一緒にセーブする

エディットしたプログラムや並び替えられているプログラムを使用して作られたソングを保存するときは、それらを一緒に保存してください。

1. SDカードをSDカード・スロットに挿入します。

   メディアのラベルを上に向け、コネクター側をSDカード・スロットに挿入し、クリック音がするまで押し込んで装着します。

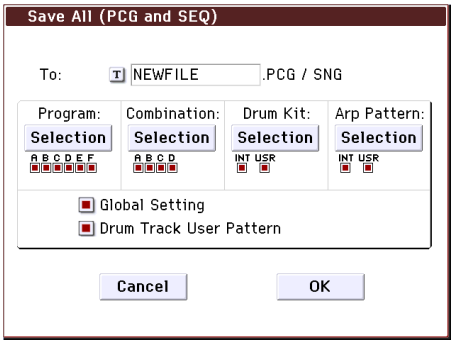
2. [MEDIA] スイッチを押して、Media モードに入ります。（LED点灯）
3. Saveタブを押してMedia–Saveページに入ります。
4. データをセーブしたいディレクトリを選びます。

   Openボタンを押すと1階層下に移動し、Upボタンを押すと1階層上に移動できます。

   ディレクトリを新規作成する場合は、作成したい階層に移動してからMedia–Utilityページのページ・メニュー・コマンド"Create Directory"を使って作成します。

5. Saveページでページ・メニュー・ボタンを押し、"Save All (PCG & SEQ)"を選びます。

   このコマンドを実行すると、.PCGと.SNGファイルを一度にセーブします。ダイアログが表示されます。



6. テキスト・エディット・ボタン（「T」）を押して、ファイルの名前を入力します。

   作成されるファイルは、ここで入力したファイル・ネームを共通して使用します(拡張子はそれぞれ異なります)。

7. OKボタンを押すと、データがSDカードにセーブされます。

   セーブし終えると、ディスプレイは自動的にSaveページに戻り、セーブされたファイルを表示します。

Note: ダイアログの各「Selection」でセーブするバンクを指定することができますが、ソングを保存するときは、ソングで使用しているプログラムやドラムキットも一緒にセーブしてください。
同様に、コンビネーションをセーブするときは、保存するコンビネーションで使用しているプログラムやドラムキットを、プログラムをセーブするときは、プログラムで使用しているドラムキットを一緒にセーブしてください。

ソングをセーブする

Sequencerモードで[WRITE]スイッチを押すことによって、SNGファイルをSDカードにセーブすることができます。

ダイアログが表示されたらもう一度[WRITE]スイッチを押すとセーブが実行されます。

データをロードする

プログラムやコンビネーションなどのサウンド・データや、ソング･データなどをロードします。次の手順でロードします。

1. ロードするファイルが入った SD カードを SD カード・スロットに挿入します。

   メディアのラベルを上に向け、コネクター側をSDカード･スロットに挿入し、クリック音がするまで押し込んで装着します。

2. [MEDIA] スイッチを押して、Media モードに入ります。(LED点灯)
3. Loadタブを押してMedia–Loadページに入ります。
4. ロードしたいデータが入っているディレクトリへ移動し、.SNGファイルを選びます。

   ディレクトリはフォルダのアイコンです。Openボタンを押すと1階層下へ移動し、Upボタンを押すと1階層上に移動できます。

   選択した.SNGファイルはハイライトで表示されます。

5. ディスプレイのページ下にあるLoadボタンを押します。

   このとき、ダイアログが表示され、ロード・オプションを設定できます。

6. 一緒にプログラム等をロードするときは、"Load [ファイル名].PCG too"のチェック・ボックスにチェックを入れます。

   これらのチェック・ボックスにチェックが入ると、.SNGファイルをロードするときに同名の.PCGファイルも同時にロードされます。

7. "Select .SNG Allocation"でソング・データのロード方法と現在メモリー上にあるソング・データを消去するかどうかを指定します。

   Appendの場合は、メモリー上にあるソング・データを消去せずに空いているソング番号の小さい番号からソングをロードします。

   Clearの場合は、メモリー上にあるソング・データをすべて消去してから、ロードするソングをセーブ時と同じ番号にロードします。

8. OKボタンを押してデータをロードします。

データのロードおよびセーブ中は、電源を切ったり、SDカードを取り外すことは絶対にしないでください。

プログラム、コンビネーション、ソング、ドラムキット、ユーザー・アルペジオ・パターンをロードするときは、メモリー･プロテクト(GlobalモードP0: Basic Setup– System Preferences）を必ずオフ（チェックが外れた状態）にします。メモリー・プロテクトがオンの状態だと、これらのデータはロードできません。

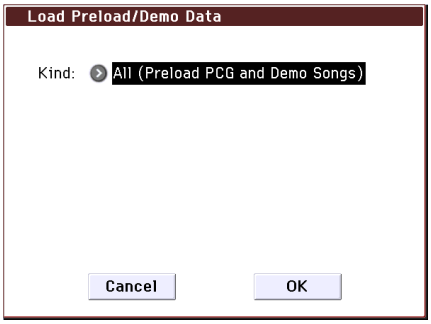
デモ・ソングを聴く

デモ・ソングをロードする

以下の操作を行うと、KROME 本体に保存されているデータはプリセットのプログラムやコンビネーション・データとデモ・ソング・データで上書きされ、消えてしまいます。これまでにエディットしたり新規作成したデータを消したくない場合は、SDカード(市販)にセーブしてください。

1. [GLOBAL]スイッチを押して（LED点灯）、Globalモードに入ります。
2. Global P0: Basic Setupページを表示します。

   他のページが表示されているときは[EXIT]スイッチを押してください。
3. ディスプレイ右上のメニュー・ボタンを押して、“Load Preload/Demo Data”を選びます。



4. “Kind”で、All (Preload PCG and Demo Songs)を選びます。

   ロードを実行すると、プリロード・データとデモ・ソング・データがロードされます。
5. OKボタンまたは[ENTER]スイッチを押します。

   確認のためのダイアログが表示されます。

   もう一度OKボタンまたは[ENTER]スイッチを押すとロードが実行されます。

データをロードしている間は、絶対に電源をオフにしないでください。

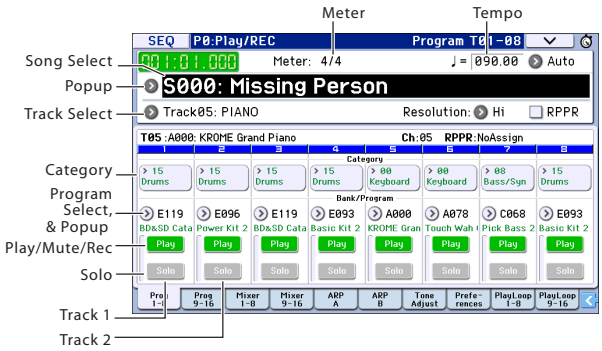
Memory Protectedダイアログが表示されるときは、System Pref.タブを押して、Memory Protect “Song”、“Program”などのチェック・ボックスのチェックをはずします。そしてロードし直してください。

デモ・ソングを聴く

Sequencerモードでデモ・ソングを聴きます。

1. [SEQ]スイッチを押して（LED点灯）、Sequencerモードに入ります。
2. P0: Play/REC– Program T01–08ページを表示します。

   表示されていない場合は、[EXIT]スイッチを何度か押します。



3. まずはS000のソングを聴いてみましょう。

   S000のソングが選ばれていることを確認してください。他のソングが選ばれている場合は、ソング・ネームの部分（“Song Select”）を押して表示を反転させ、テン・キー[0]、[ENTER]スイッチを順番に押します。
4. SEQUENCER [▶ / ■] (START/STOP)スイッチを押します。

   LEDが点滅し、ソングの演奏が始まります。
5. 途中で演奏を止めるときは、もう一度 [▶ / ■]スイッチを押します。
6. 次のソングを聴いてみましょう。

   ソング・ネームの部分（“Song Select”）を押します。テン・キー[1]を押して、[ENTER]スイッチを押します。(“S001”のソングが選ばれます。)

   また、ソング・ネームの左側の丸いボタン（Song Select ポップアップ）を押すと、リストにソング・ネームが表示されます。ソング・ネームを押してソングを選びます。
7. [▶ / ■]スイッチを押して、演奏を開始し、そしてもう一度 [▶ / ■]スイッチを押して停止してください。

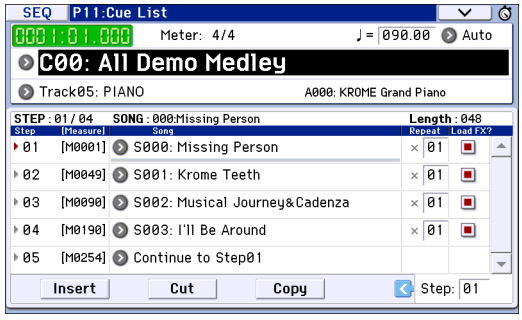
ロードしたデモ・ソングは電源をオフにすると消去されますので、必要に応じてロードしてください。

複数のソングを連続再生する

キュー・リストにアサインされたデモ・ソングをプレイバック（再生）します。キュー・リストは、アサインしたソングを連続的に聴くことができます。各ソングの繰り返し回数を設定することもできます。

1. P11: Cue Listページを表示します。

   [PAGE]スイッチを押して、Seq Page Selectページを表示します。ディスプレイの“P11 Cue List”を押します。



2. SEQUENCER [▶ / ■] (START/STOP)スイッチを押します。

   リストにアサインされたソングを順番に聴くことができます。途中で演奏を止めるときは、もう 1 度 [▶ / ■] (START/STOP)スイッチを押します。

RPPRで演奏する

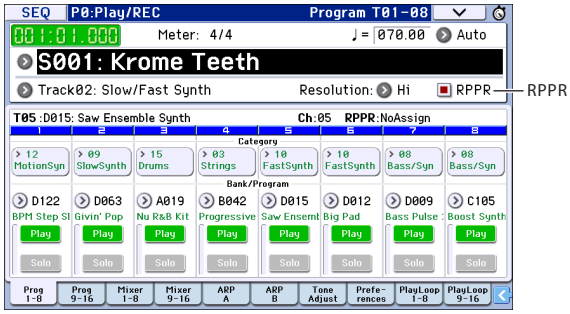
Sequencerモードでは、RPPR（リアルタイム・パターン・プレイ/レコーディング）機能を使用できます。

RPPR機能は、プリセット・パターンやユーザー・パターンとそれを再生するトラックを鍵盤の1つずつに割り当て、鍵盤を押すことによってパターンをプレイバックしたり、その演奏をレコーディングするものです。

ロードしたデモ・ソングにはRPPR機能を使用したデータが入っていますので演奏してみましょう。

1. P0: Play/REC– Program T01–08ページを表示し、S001を選びます。

   前ページの手順6 、7を参照してください。



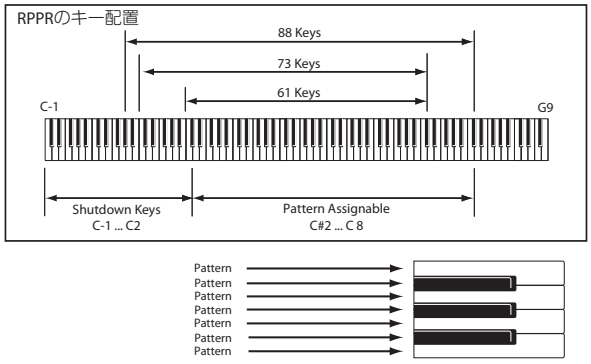
2. "RPPR" のチェック･ボックスがチェックされていることを確認します。

   チェックをすると設定されているRPPR が動作します。チェックをはずすとRPPRは動作しません。

3. C#2以上の音域の鍵盤を押します。

   鍵盤に割り当てられているパターンの演奏が始まります。これらC#2～C8の72キー（Pattern Assignable）にはドラムス・パターンやベースのフレーズなどのパターンがアサインできます。アサインしていないキーでは、通常の演奏ができます。

   鍵盤から手を離しても演奏が続くことがありますが、C2以下の音域のキー（Shutdown Keys）を2回素早く押すと止まります。



仕 様（概略）

使用温度条件:
0 ～ +40 ℃（結露させないこと）

鍵盤部:
61鍵、73鍵　セミ・ウェイテッド鍵盤
(ベロシティ対応・アフタータッチ非対応)

88鍵　NH (ナチュラル・ウェイテッド・ハンマー・アクション）鍵盤（ベロシティ対応・アフタータッチ非対応）

電源:
ACアダプター電源端子（ DC 12V、⟐⟐ ）、
POWERスイッチ

外形寸法 (幅 x 奥行き x 高さ):
61鍵　1,027×313×93 mm
73鍵　1,191×313×93 mm
88鍵　1,448×383×131 mm

質量:
61鍵　7.2 kg
73鍵　8.2 kg
88鍵　14.7 kg

消費電力: 13 W

付属品:
ACアダプター

KROMEクイック・スタート・ガイド（本書）

アクセサリー・ディスク（PDF：KROMEオペレーション・ガイド、パラメーター・ガイド、Voice Name List、ムービー：ビデオ・マニュアルなど）

オプション:
XVP-10: エクスプレッション/ボリューム・ペダル

EXP-2: フット・コントローラー

DS-1H: ダンパー・ペダル

PS-1, PS-3: ペダル・スイッチ

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より 1ヶ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
   - 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より 3ヶ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ
KROME-61/73/88 **保証書**

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。
お買い上げ日　　年　　月　　日
販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口　TEL 03(5355)5056

● サービス・センター:
〒168-0073東京都杉並区下高井戸 1-15-12
TEL 03(5355)3537　FAX 03(5355)4470

KORG 株式会社コルグ
本社: 〒206-0812　東京都稲城市矢野口4015-2
http://www.korg.co.jp/

© 2012 KORG INC.